

英国安全衛生庁は、2016年7月初めに、2015年度（2015年4月1日から2016年3月31日まで）におけるグレートブリテンにおける死亡（労働）災害の速報値を要約（Summary）として公表しました。それによると、2015年度（2015/16）における労働者の死亡災害の暫定的な数字は、144件（訳者注：被雇用者及び自営業者の死亡件数の合計。被雇用者のみでは、105件である。表1参照のこと。）で、それに対応する労働者100,000人当たりの死亡災害の発生率は、0.46でした。これらのデータは、グレートブリテンにおける死亡災害の発生数及び発生率が、国際的に見ても依然かなり低い水準であることを示しています。

（作成者注：以下の記述のうち、「イタリック体で表記されているもの」は、作成者が文意を補足するために加えたものです。

## 原資料の題名及び所在

- Fatal injury statistics, Summary for 2015/16
- <http://www.hse.gov.uk/statistics/fatals.htm>

## 目 次

○ 要約	
(解説)	
英語原文	日本語仮訳
<b>Background</b>	<b>背景</b>
The provisional nature of the latest statistics	最新の統計の暫定的な性質
Details of coverage, and scope of these statistics	これらの統計がカバーする範囲及びこれらの統計の適用

<p><b>Statistics for workplace fatal injuries – 2015/16 and previous years</b></p> <p>Figures by main industry sector</p>	<p><b>職場の死亡事故の統計—2015/16 及び過去の年</b></p> <p>主要な産業別の数字</p>
<p><b>Country/region comparisons</b></p>	<p>(<b>連合王国内の</b>) 国別、地域別比較</p> <p>(この節は、翻訳を省略する。)</p>
<p><b>Commentary on longer-term trends</b></p>	<p><b>長期的な傾向に関するコメント</b></p>
<p><b>Comparison with other countries</b></p>	<p><b>他の国々との比較</b></p>
<p><b>Technical notes</b></p> <p>The provisional nature of the latest statistics</p> <p>Details of coverage</p> <p>General inclusions to these figures</p> <p>General exclusions to these figures</p> <p>Calculation of fatal injury rates and the source of employment estimates</p> <p>The separate publication of names and details of fatalities on the HSE website</p> <p>National Statistics</p>	<p><b>技術的覚書</b></p> <p>最新の統計の暫定的な性質</p> <p>カバーされた (死亡災害) の詳細</p> <p>これらの数字に対して一般的に含まれるもの</p> <p>これらの数字に対して一般的に除外されるもの</p> <p>死亡事故発生率の計算及び雇用の見積もり</p> <p>HSE のウェブサイト上での死亡事故の名称及び詳細の分離した公表</p> <p>国家統計</p>

## ○ 要約

英語原文	日本語仮訳
<ul style="list-style-type: none"> <li>● The provisional figure for the number of workers fatally injured in 2015/16 is 144, and corresponds to a rate of fatal injury of 0.46 deaths per 100,000 workers.</li> <li>● The figure of 144 worker deaths in 2015/16 is 7% lower than the average for the past five years (155). The latest rate of fatal injury of 0.46 compares to the five-year average rate of 0.52.</li> <li>● The finalised figure for 2014/15 is 142 worker fatalities, and corresponds to a rate of 0.46 deaths per 100,000 workers.</li> <li>● Over the latest 20-year time period there has been a downward trend in the rate of fatal injury, although in recent years this shows signs of levelling off.</li> <li>● There were 67 members of the public fatally injured in accidents connected to work in 2015/16 (excluding incidents relating to railways, and those enforced by the Care Quality Commission).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2015 年度（2015/16）における労働者の死亡災害の暫定的な数字は、144 件（訳者注：被雇用者及び自営業者の死亡件数の合計。被雇用者のみでは、105 件である。表 1 を参照のこと。）で、それに対応する労働者 100,000 人当たりの死亡災害の発生率は、0.46 である。</li> <li>● 2015 年度の労働者の死亡災害の 144 件（訳者注：被雇用者及び自営業者の合計）という数は、過去 5 年間の死亡災害数の平均（155 件）よりも 7% 少ない。0.46 という発生率は、過去 5 年間のその発生率の平均と比較すると、それは 0.52 である。</li> <li>● 2014 年度（2014/15）の確定労働者の死亡災害件数は、142 件で、それに対応する死亡災害の発生率は、労働者 100,000 人当たりで 0.46 である。</li> <li>● 過去 20 年間以上、死亡災害の発生率は、減少する傾向にあるが、近年では横ばいの傾向にある。</li> <li>● 2015 年度（2015/16）では、一般公衆の死亡災害が 67 件あった（鉄道に関連する事象及び the Care Quality Commission（訳者注：英国保健省の所管する非政府機関の公共団体で、イングランドにおける保健医療サービス、社会福祉サービスを規制し、監視する委員会である。以下同じ。）が取り扱った事案を除く。）</li> </ul>

(次の図1を参照されたい。)

Figure 1: Number and rate of fatal injury to workers<sup>1</sup> 1996/97 – 2015/16p

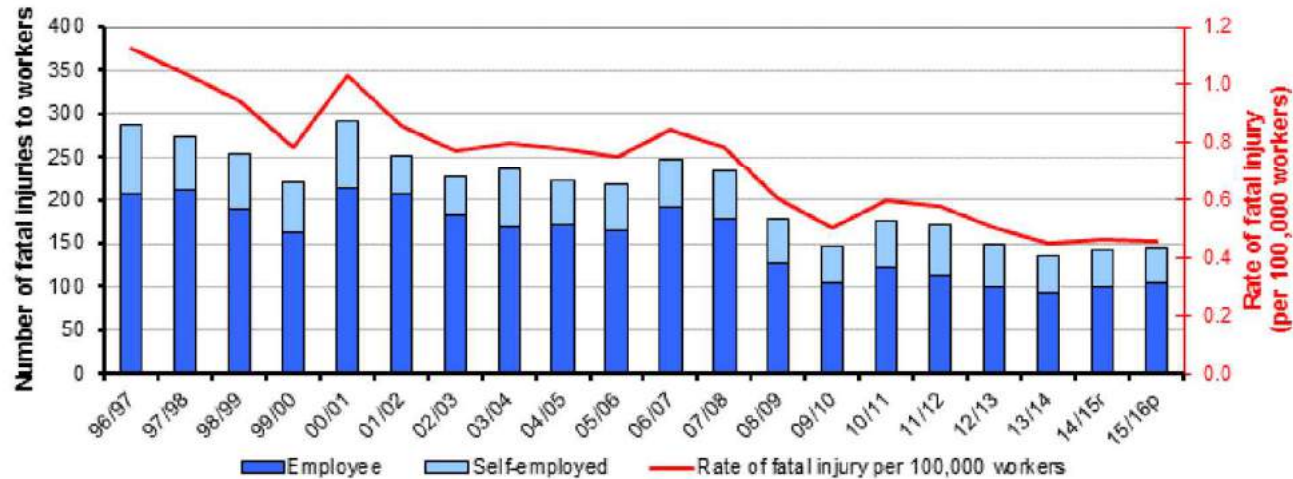


図1：1996/97 から 2015/16(暫定値)までの労働者の死亡災害の数及び発生率（労働者 100,000 人当たり）

(解説)

- ① グレートブリテンにおける 2015 年度の職場における死亡災害が、暫定的なものであるとしても 144 件（就業者から自営業者を除いた被雇用者のみでは 105 件）であったことは、我が国の 2015 年における労働者の確定死亡災害が、972 人であったこと（資料出所：厚生労働省）と比較して、グレートブリテンでの死亡災害が、例年どおり極めて少ないことが注目される。
- ② グレートブリテンと我が国との主要な業種別（製造業と建設業に限る。なお、サービス業については、我が国とグレートブリテンとの業種分類がかなり異なるため、算出しなかった。）死亡労働災害者数、雇用者数、雇用者 10 万人当たりの死亡災害発生率を、訳者

が試算したところ（業種別雇用者数については、日本のものは総務省統計局の労働力調査による。なお、グレートブリテンのものは2014年、2015年のものが見い出せないなので、やむを得ず2013年のものを用いた。）、その結果は次の表のとおりとなり、いずれも我が国の死亡災害発生率は、連合王国のものよりはかなり高くなっている。

業種（CとFは、国際標準産業分類での呼び方を示す。）	日本（2015年）			グレートブリテン（2015年度）		
	死亡労働災害者数	雇用者数（2015年。単位：万人）	雇用者10万人当たりの死亡災害発生率	被雇用者の死亡災害者数	雇用者数（2013年。単位：千人）	雇用者10万人当たりの死亡災害発生率
製造業（C）	160	984	1.63	25	2,698	0.93
建設業（F）	327	407	8.03	27	1,278	2.11

### ③ 我が国とグレートブリテンでの死亡災害者数の相違がある要因について

このことについては、はっきりしないが、次の要因等を踏まえて解釈することが必要ではないかと考えられる。

- グレートブリテンの労働災害統計では、道路交通、空路及び海路での移動等で生じた災害は、対象から除外されているが、我が国のものはこれらを含んでいる。
- 労働災害統計の第一義的なデータは、我が国の場合には平成23年（2011年）までは労災保険給付データ及び厚生労働省安全課調べのもの、平成24年（2012年）以降は労働者死傷病報告及び労災保険新規受給者数の併用のものであるが、グレートブリテンの場合は、RIDDOR (*The Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations*：傷害、疾病及び危険事象報告規則) による届け出（自営業者、一般公衆の災害を含む。）が基礎データとなっている。
- グレートブリテンでは、労災補償制度は我が国のような国営保険（労働者災害補償保険法等によるもの）ではなく、*Employers' Liability (Compulsory Insurance) Act 1969*（「雇用者の責任（法定保険）法1969年」）に基づき、少なくとも職場における労働災害が発生した場合に労働者の補償の要求に備えるための最低限度の保険（この場合、雇用者が契約できるのは、*the Financial Services and Markets Act 2000*（財政サービス及び市場法、2000年）の関係条項に基づき登録された保険会社等に限定されている。）に加入することが義務付けられており、その保険の補

償額の上限は、少なくとも 500 万ポンドであり、さらに実際には雇用者は 1,000 万ポンドまでの上限の保険に加入していることが多いとされている。

英語原文	日本語仮訳
<p><b>Background</b></p> <p><b>The provisional nature of the latest statistics</b></p> <p>The figures for 2015/16 are at this stage provisional, covering the twelve months 1 April 2015 to 31 March 2016, and will be finalised in July 2017 following any necessary adjustments. Based on previous years, the provisional 2015/16 figure of 144 could increase or decrease by several deaths when it is finalised – see the Technical Note.</p> <p><b>Details of coverage, and scope of these statistics</b></p> <p>These statistics cover fatal accidents in workplaces in Great Britain, the primary determinant of inclusion being RIDDOR (The Reporting of Injuries, Diseases and Dangerous Occurrences Regulations).</p> <p>Work-related deaths excluded from these statistics are mainly of two types: (i) fatal diseases; and (ii) fatal accidents on non-rail transport systems.</p>	<p><b>背景</b></p> <p><b>最新の統計の暫定的な性質</b></p> <p>2015/16 の数字は、2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日までの 12 か月間をカバーしているが、この段階では暫定的なものであって、2016 年 7 月末には、必要な補正の後に確定されるであろう。従来 of 年別のものを踏まえると、2015/16 の暫定的な 144 件の数字は、確定された場合には、数件の増加又は減少があり得るであろう。— (本資料の末尾にある) 技術的な覚書を参照されたい。</p> <p><b>これらの統計がカバーする範囲及びこれらの統計の適用</b></p> <p>これらの統計は、グレートブリテンにおける職場での死亡事故をカバーしており、第一義的な決定要素は、RIDDOR (障害、疾病及び危険事象報告規則) によるものである。</p> <p>これらの統計から除外される作業関連死亡は、主に次の二つのタイプである。</p> <p>(i) 死亡疾病、 (ii) 非鉄道輸送システムに関する死亡事故</p>

I. The asbestos-related cancer mesothelioma is one of the few examples where deaths due to an occupational disease can be counted directly. There were 2,515 such deaths in GB in 2014 – see [www.hse.gov.uk/statistics/causdis/mesothelioma/](http://www.hse.gov.uk/statistics/causdis/mesothelioma/)

Deaths from other diseases that can be caused by both occupational and non-occupational factors - such as most other occupational cancers - usually have to be estimated rather than counted. Each year around 13,000 deaths from occupational lung disease and cancer are estimated to have been caused by past exposure, primarily to chemicals and dusts, at work (this estimate includes the mesothelioma deaths mentioned above). For more details see [www.hse.gov.uk/statistics/](http://www.hse.gov.uk/statistics/).

II. Fatal accidents involving workers travelling on a public highway (a 'road traffic accident'). Such incidents are enforced by the police and reported to the Department for Transport. Likewise fatal accidents involving workers travelling by air or sea; these incidents are the responsibility of the Air and Marine Accident Investigation Branches of the Department for Transport, and reported accordingly. See Technical Note for contact details.

Statistics on deaths occurring within Northern Ireland are the responsibility of HSENI - [www.hseni.gov.uk/](http://www.hseni.gov.uk/).

I 石綿関連の中皮腫は、職業性疾病による死亡が直接数えられる数少ない例の一つである。2014年にはグレートブリテンでそのような死亡が2,515件あった。－[www.hse.gov.uk/statistics/causdis/mesothelioma/](http://www.hse.gov.uk/statistics/causdis/mesothelioma/) を参照されたい。

職業性因子及び非職業性因子の両方によってもたらされる他の疾病による死亡—他の職業がんのようなもののほとんど—は、通常は、集計されるよりはむしろ見積もらなければならない。毎年職業性の肺疾患及びがんによって、およそ13,000の死亡が、第一義的には職場における化学物質及び粉じんへのばく露が原因であると見積もられている（この見積もりは、上記の中皮腫を含んでいる。）。さらなる詳細については、[www.hse.gov.uk/statistics/](http://www.hse.gov.uk/statistics/) を参照されたい。

II 公共のハイウェイを移動中の労働者を含む死亡事故（道路交通事故）。そのような事象は、警察が所管し、運輸省に報告される。空路及び水路を移動中の労働者を含む死亡事故は、同様に運輸省の航空及び海上事故調査部門の責任であり、それに応じて報告される。より詳細については、（本資料の末尾にある）技術的な覚書を参照されたい。

北アイルランド内で発生した死亡に関する統計は、HSENI-[www.hseni.gov.uk/](http://www.hseni.gov.uk/) の責任である。

<p><b>Calculation of fatal injury rates</b></p> <p>Changes in the size of the workforce will impact on the number of fatalities in any one year. Therefore, when making any comparisons such as: a year-to-year basis; or between one sector or region and another; or between fatal and non-fatal injuries; it is important to look at the rate of fatal injury per unit of employee, self-employed or worker, as appropriate. This is derived from the numerator (the count of fatal injuries) divided by the denominator (the estimated employment using figures from the Office for National Statistics).</p> <p>This is then multiplied by a factor of 100,000. This is a standardised method as used across all EU states and wider.</p>	<p><b>死亡事故発生率の計算</b></p> <p>いずれの年においても、労働力の大きさの変化は、死亡事故の数字に影響している。それゆえ、年間、産業部門、地域及びその他、死亡及び非死亡事故のような比較をする場合には、適切なものとしては被雇用者、自営業者又は労働者の単位ごとに死亡事故発生率を見ることが重要である。このことは、分子（死亡事故の数）を分母（国家統計局からの数字を用いる雇用者数の見積もり）で除することによって算定される。</p> <p>これを 100,000 倍するというのが、すべての EU（加盟）諸国全体及びより広く採用されている標準化の方法である。</p>
--	---

<p>英語原文</p>	<p>日本語仮訳</p>
<p><b>Statistics for workplace fatal injuries – 2015/16 and previous years</b></p> <p><b>Figures by main industry sector</b></p> <p>Tables 1 - 4 below provide the latest provisional information for fatal injuries in 2015/16, and compare these data with the previous five-year</p>	<p><b>職場の死亡事故の統計—2015/16 及び過去の年</b></p> <p><b>主要な産業別の数字</b></p> <p>次の表 1-4 は、2015/16 年における、死亡事故についての最新の暫定的な数字を与えており、これらのデータを過去 5 年間（2010/11 年～2014/15 年）と</p>



average (2010/11 to 2014/15). Note of caution – when making comparisons between industries or across years, the number of fatalities in some industries is relatively small, hence susceptible to considerable variation.

For main industry sectors in 2015/16:

- There were 27 fatal injuries to workers in agriculture, lower than the five year average of 32. The rate of fatal injury in 2015/16 is 7.73, compared to the five-year average rate of 9.40.
- In mining and quarrying two workers were killed, compared to an average of four deaths for the previous five years.
- There were 27 fatal injuries to workers in manufacturing, 23% higher than the five-year average (22). The latest rate of fatal injury is 0.92, compared to an average rate of 0.79 over the previous five years. Within the latest year, there were three incidents in this sector resulting in eight deaths, see section ‘longer-term trends’ for details.
- There were six fatal injuries to workers in waste and recycling, compared to the five-year average (7) but subject to considerable yearly fluctuations. The latest rate is 5.71 deaths per 100,000 compared to the five-year average of 5.59.
- There were 43 fatal injuries to workers in construction, the same as the five year average of 43. The latest rate of fatal injury is 1.94 per 100,000 workers, compared to a five-year average of 2.04.

比較している。注意を要すること一産業間又は年間の比較をする場合には、ある産業においては死亡事故の数が比較的小さいため、かなりの変動を受けやすいものである。

2015/16年における主要な産業については、次のとおりである。

- 農業では、27件の死亡事故があつて、過去5年間の平均よりも少なくなっている。2015/16年における死亡事故発生率は、7.73で、過去5年間の平均発生率と比較すると、9.40である。
- 鉱業及び採石業では、二人の労働者が死亡しているが、過去5年間の平均発生率と比較すると4人である。
- 製造業では27件の労働者の死亡事故があり、過去5年間の平均（22件）と比較すると23%多くなっている。最新の発生率は、0.92で、過去5年間の平均発生率と比較すると、0.79である。最新の年（2015/16年）では、この部門では3つの事象で8人の死亡事故が発生した。詳細には、「長期的な傾向」の節を参照のこと。
- 廃棄物及びリサイクル業では6件の死亡災害があつて、過去5年間の平均（7件）と比較すると年ごとに変動している傾向がある。最新の10万人当たりの発生率は、5.71で、過去5年間の平均の5.59と比較している。
- 建設業では43件の労働者の死亡事故があり、これは過去5年間の平均と同じである。最近の10万人当たりの発生率は、1.94で、過去5年間の平均と比較すると2.04である。

<ul style="list-style-type: none"> <li>● There were 37 fatal injuries to workers in services, 18% lower than the average for the past five years (45). The latest rate of 0.15 deaths compares to the five-year average rate of 0.19.</li> <li>● There were 103 members of the public fatally injured in accidents connected to work in 2015/16. Of these deaths, 36 (35%) related to incidents occurring on railways (See the technical note for the effects on the statistics following recent changes to (a) railways suicide reporting, and (b) the role of the Care Quality Commission).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サービス業では 37 件の労働者の死亡事故があり、過去 5 年間の平均（45 件）よりも 18% 少なかった。死亡事故発生率は、0.15 で、過去 5 年間の平均の発生率と比較すると 0.19 である。</li> <li>● 2015/16 には、作業と関連する一般公衆の死亡事故が 103 件あった。これらの死亡事項については、その 36 件（35%）が鉄道に関連するものであった。（(a) 鉄道自殺報告、(b) the Care Quality Commission（前出の訳注のとおり。）の役割についての最近の変更を踏まえた統計時への影響に関する技術的注を参照のこと。）</li> </ul>
--	--

**Table 1: Number of fatal injuries by main industry - 2015/16p**

<b>Main Industry SIC 2007 (Section)</b>	<b>Employee</b>	<b>Self employed</b>	<b>Workers<sup>1</sup></b>	<b>Members of the public</b>	<b>Total fatal injuries</b>
Agriculture (A)	10	17	27	2	29
Mining and Quarrying (B)	2	-	2	-	2
Manufacturing (C)	25	2	27	-	27
Gas, electricity and water supply: sewerage, waste and recycling (D,E <sup>2</sup> )	8	-	8	-	8
- of which waste and recycling (SIC38)	6	-	6	-	6
Construction (F) <sup>3</sup>	27	16	43	2	45
Services (G-U)	33	4	37	99	136
<b>All Industries (A-U)</b>	<b>105</b>	<b>39</b>	<b>144</b>	<b>103</b>	<b>247</b>

p = Provisional

<sup>1</sup> The term 'workers' covers employees and the self-employed combined.

<sup>2</sup> Figures for SIC Division 38 'waste collection etc. are also included in the overall figures for the combined Sections D and E.

<sup>3</sup> The figure for construction for the latest year currently includes the one confirmed death relating to the incident at Didcot, and in line with established statistics procedures will be updated when further details are confirmed.

表 1 : 2015/16 (暫定値) の主要産業別死亡災害の数

**Table 2: Rate of fatal injuries (per 100,000 employees or self-employed)  
by main industry - 2015/16p**

Main Industry SIC 2007 (Section)	Employee	Self employed	Workers <sup>1</sup>
Agriculture (A)	5.92	9.41	7.73
Mining and Quarrying (B)	..	..	..
Manufacturing (C)	0.93	0.86	0.92
Gas, electricity and water supply: sewerage, waste and recycling (D,E <sup>2</sup> )	..	..	..
- of which waste and recycling (SIC38)	5.95	..	5.71
Construction (F)	2.05	1.78	1.94
Services (G-U)	0.15	0.11	0.15
<b>All Industries (A-U)</b>	<b>0.40</b>	<b>0.79</b>	<b>0.46</b>

p = Provisional

<sup>1</sup> The term 'workers' covers employees and the self-employed combined.

<sup>2</sup> Figures for SIC Division 38 'waste collection etc. are also included in the overall figures for the combined Sections D and E.

.. Rate not calculated as the employment estimates are small or potentially unreliable

表 2 : 2015/16 (暫定値) の主要産業別死亡災害発生率 (労働者 100,000 人当たり)

**Table 3: Number<sup>4</sup> of fatal injuries by main industry, averaged from 2010/11 to 2014/15**

Note: The finalised figures for 2014/15 are shown in brackets.

Main Industry SIC 2007 (Section)	Employees	Self employed	Workers <sup>1</sup>	Members of the public	Total fatal injuries
Agriculture (A)	11 (13)	20 (19)	32 (32)	5 (4)	37 (36)
Mining and Quarrying (B)	4 (1)	- (-)	4 (1)	- (-)	4 (1)
Manufacturing (C)	19 (15)	3 (3)	22 (18)	1 (2)	23 (20)
Gas, electricity and water supply: sewerage, waste and recycling (D,E <sup>2</sup> )	7 (5)	1 (1)	8 (6)	3 (7)	11 (13)
- of which waste and recycling (SIC38)	6 (4)	1 (1)	7 (5)	3 (6)	9 (11)
Construction (F)	28 (24)	16 (11)	43 (35)	3 (3)	47 (38)
Services (G-U)	36 (39)	10 (11)	45 (50)	309 (111)	354 (161)
<b>All Industries (A-U)</b>	<b>105 (97)</b>	<b>50 (45)</b>	<b>155 (142)</b>	<b>322 (127)</b>	<b>476 (269)</b>

p = Provisional

<sup>1</sup> The term 'workers' covers employees and the self-employed combined.

<sup>2</sup> Figures for SIC Division 38 'waste collection etc. are also included in the overall figures for the combined Sections D and E.

<sup>3</sup> The figures for services include railway incidents reported to the Office of Rail and Road (ORR), for member of the public figures, the yearly average of 309 becomes 75 if railway-related incidents are excluded, and the 2014/15 figure of 111 becomes 86. See the technical note for a change in railways suicide reporting and the effect on the statistics.

<sup>4</sup> Individual numbers are rounded and may not therefore sum to the subtotals or totals.

表 3 : 2010/11 から 2014/15 までを平均した所要産業別の死亡災害数

**Table 4: Rate of fatal injuries by main industry, averaged from 2010/11 to 2014/15**

Note: The finalised rates for 2014/15 are shown in brackets.

<b>Main Industry SIC 2007 (Section)</b>	<b>Employees</b>	<b>Self employed</b>	<b>Workers<sup>1</sup></b>
Agriculture (A)	7.15 (7.47)	11.40 (10.14)	9.40 (8.85)
Mining and Quarrying (B)	. .	. .	. .
Manufacturing (C)	0.74 (0.56)	1.47 (1.42)	0.79 (0.62)
Gas, electricity and water supply: sewerage, waste and recycling (D,E <sup>2</sup> )	. .	. .	. .
- of which waste and recycling (SIC38)	4.98 (3.66)	. .	5.59 (4.33)
Construction (F)	2.15 (1.86)	1.87 (1.28)	2.04 (1.63)
Services (G-U)	0.17 (0.18)	0.30 (0.31)	0.19 (0.20)
<b>All Industries (A-U)</b>	<b>0.41 (0.37)</b>	<b>1.11 (0.93)</b>	<b>0.52 (0.46)</b>

<sup>1</sup> The term 'workers' covers employees and the self-employed combined.

<sup>2</sup> Figures for SIC Division 38 'waste collection etc. are also included in the overall figures for the combined Sections D and E.

. . Rate not calculated as the employment estimates are small or potentially unreliable

表 4 : 2010/11 から 2014/15 までを平均した所要産業別の死亡災害発生率

英語原文	日本語仮訳
<b>Country/region comparisons</b>	(連合王国内の) 国別、地域別比較 (この節は、翻訳を省略する。)

**Table 5: Number and rate of fatal injuries to workers, by country and region<sup>1</sup> for 2015/16p and averaged from 2010/11 to 2014/15**

Note: The finalised rates for 2014/15 are shown in brackets.

Country	Region	Number			Rate (per 100,000)		
		2015/16p	5 yr average <sup>2</sup> and (2014/15)		2015/16p	5 yr average <sup>2</sup> and (2014/15)	
<b>England</b>		115	125	(113)	0.42	0.49	(0.43)
	North East	5	4	(1)	0.43	0.34	(0.09)
	North West	17	20	(19)	0.50	0.61	(0.57)
	Yorkshire and The Humber	15	17	(15)	0.58	0.70	(0.60)
	East Midlands	12	12	(15)	0.54	0.55	(0.69)
	West Midlands	12	14	(11)	0.45	0.54	(0.42)
	East of England	14	15	(10)	0.49	0.55	(0.36)
	London	17	11	(9)	0.34	0.25	(0.18)
	South East	11	15	(10)	0.25	0.36	(0.23)
	South West	12	14	(21)	0.43	0.53	(0.76)
<b>Wales</b>		13	11	(10)	0.93	0.81	(0.72)
<b>Scotland</b>		16	19	(19)	0.60	0.73	(0.72)
<b>Great Britain</b>		144	155	(142)	0.46	0.52	(0.46)

p = Provisional

<sup>1</sup>The number of fatal injuries in England will not sum the total for the Regions as the figure includes fatalities where the region was not known. These incidents relate to deaths occurring on railways where a region cannot be reliably assigned.

<sup>2</sup> Individual numbers are rounded and may not therefore sum to the subtotals or totals.

表5：(連合王国内の) 国別、地域別の労働者の、2015/16 暫定値及び 2010/11 から 2014/15 までを平均した死亡災害の数及び発生率



英語原文	日本語仮訳
<p><b>Commentary on longer-term trends</b></p> <p>Fatal injuries at work are thankfully rare events. As a consequence, basic statistical principles dictate that the annual count is highly subject to chance variation, which is relatively more pronounced the smaller the number. Moreover, the effect of this chance variation can be estimated to give an indication of the amount of the figure could fluctuate if the inherent dangerousness of work conditions were to stay unchanged from one year to the next. (The following references to ‘chance’ and ‘statistically significant’ are based on a standard 95% confidence interval).</p> <p>For example it can be estimated the latest year’s count of 144 worker fatalities could have been anywhere between 121 and 170 based on chance alone. This theoretical point is borne out at a practical level when the causal factors behind individual fatalities are examined. It is often found that an unfortunate set of chance events have occurred together with shortcomings in safety precautions.</p>	<p><b>長期的な傾向に関するコメント</b></p> <p>職場での死亡事故は、有難いことに稀な出来事である。その結果として、統計の原則では、死亡事故の数がより少なければ一層、毎年の数字は、可能性の変動（chance variation）を高度に受けている。さらにこの可能性の変動の影響は、もしも作業条件の固有の危険性がその年及び次の年に変化していないとしても、その数字の合計が変動していることの暗示を与えていると見積もられることができる。（次の「可能性」と「統計的有意性」に対する関連は、95%信頼区間（confidence interval）に基づいている。）</p> <p>例えば、最新の年の144件の労働者の死亡事故は、可能性のみでは、121と170との間のどこかにあると見積もることができる。この理論的なポイントは、個別の死亡事故の背後にある原因因子が評価される場合に、実際上の水準で生ずることである。可能性の出来事の不幸な組み合わせが安全上の慎重さにおける欠点とともに起こることは、しばしば、見られることである。</p>
<p>Annual counts of fatal injuries can also be influenced by multiple fatalities; that is, one incident resulting in more than one death. In 2015/16 there were</p>	<p>毎年の死亡事故の発生数は、同時多発の死亡事故、つまり1つの事故で1人を超える死亡者が結果として生ずることによって影響される。2015/16年に</p>

three such incidents resulting in eight confirmed deaths, all classified within the industry sector of manufacturing: Two incidents resulted in two deaths each; one being in the East of England region, the other in Wales. A further incident resulted in four deaths, at Bosley Mill (North West region). For details relating to the incident at Didcot, see the construction industry section earlier in this document.

Taking employment levels into account, the 144 fatalities give a rate of 0.46 deaths per 100,000 workers.

Comparing the latest figure with the finalised 142 deaths from the previous year, this increase of 2 is not statistically significant. Similarly, if the 144 figure is compared to the average for the previous five years (155), the reduction of 7% is also not statistically significant.

It should be noted the most recent year's figures are always provisional and, based on experience of previous years, likely to increase or decrease slightly on finalisation next year as further information becomes available.

Figure 2 below shows the trend in the rate of fatal injury over the last 20 years. This differs from Figure 1, in that it also considers a moving three-year time frame to reduce the effects of year-on-year fluctuation, and

においては、そのような3例の事故が結果として8人の確定された死亡事故を生じており、そのすべては、製造業の分野で起きた。2件の事故、一方は東イングランドで、他のそれはウエールズで、それぞれ2人の死亡者を生じた。さらなる一つの事故は、Bosley Mill（北西地域）で4人の死亡者を生じた。

Didcotでの事象に関する詳細については、この資料の前半の建設業の節を参照されたい。

雇用水準を考慮すると、144件の死亡事故は、労働者10万人当たり0.46の発生率を与える。

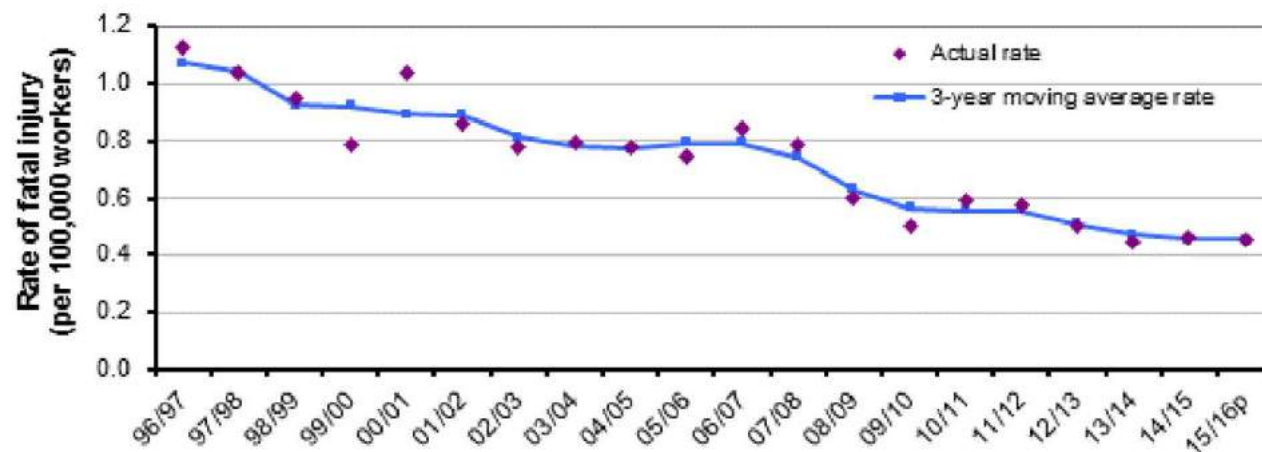
その前年の確定した142件の死亡事故と比較すると、この2件の増加は、統計的には有意なものではない。同様に、144件を過去5年間の平均（155件）と比較すると、7%の減少もまた、統計的に有意なものではない。

最も近年の数字は、常に暫定値であり、そしてその前年の経験に基づき、さらなる情報が利用可能であるので、次の年の確定からは若干増加又は減少する可能性がある。

次の図2は、過去20年間を通じての死亡事故発生率の傾向を示している。これは、それがさらに年ごとの変動の影響を減少させるための3年平均の枠組みを考慮していること、及び基調の変化を早い段階で示すことにおいて、図

<p>provide an early indication of a change in the underlying trend. This suggests that over the latest 20-year time period there has been a downward trend in the rate of fatal injury, although in recent years this shows signs of levelling off.</p>	<p>1と異なっている。このことは、最近20年間を通じて、死亡事故発生率は、近年において横ばいの傾向を示しているものの、減少傾向であることを示唆している。</p>
---	---

Figure 2: Rolling three-year average rate of fatal injury to workers<sup>1</sup>  
1996/97 – 2015/16p



p = Provisional.

r = revised

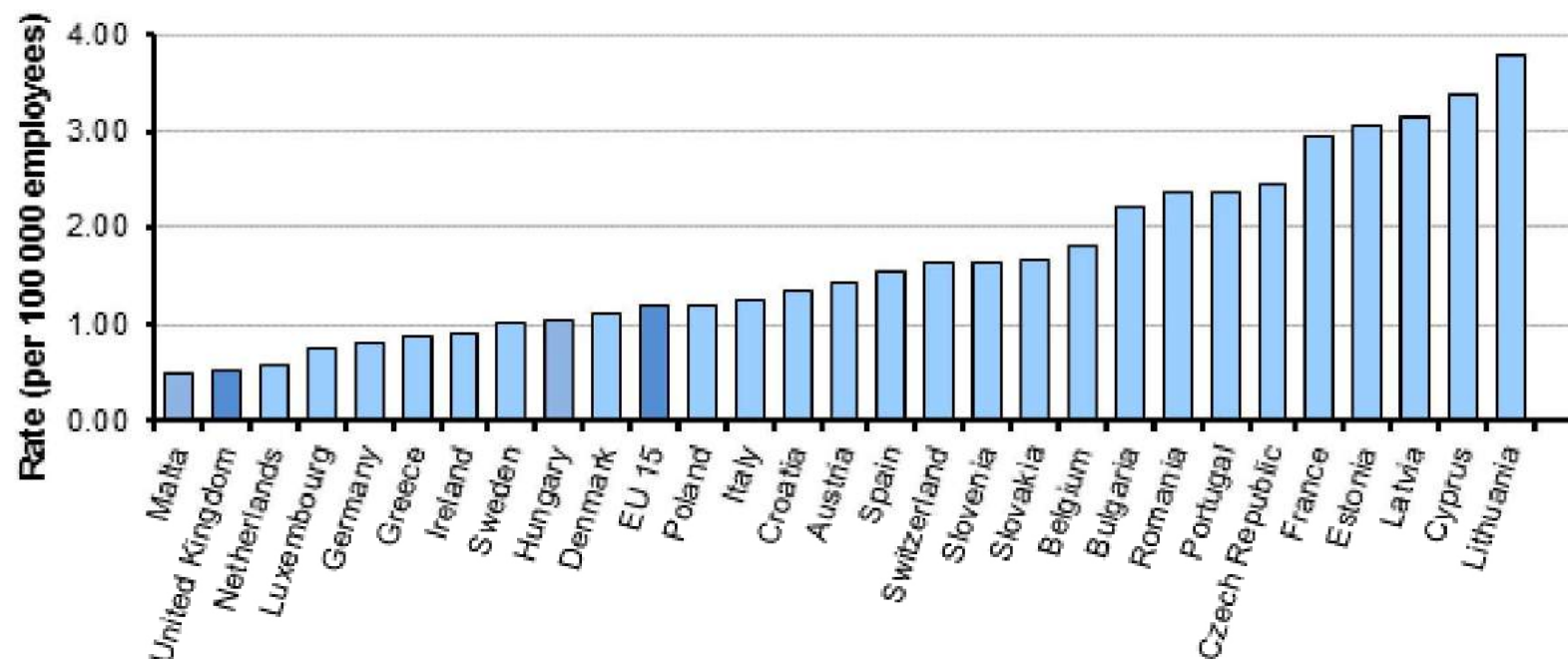
<sup>1</sup> The term 'workers' includes employees and the self-employed combined.

図 2 : 3 年ごとの労働者の死亡災害の発生率、1996/97 から 2015/16 (暫定値)

英語原文	日本語仮訳
<p><b>Comparison with other countries</b></p> <p>Global comparisons, for example, with the USA, Asia etc, are difficult due to differences in definitions of workplace accidents and reporting systems. Since 1990, the statistical authority for the European Union (Eurostat) has worked with member states on a harmonisation programme to give consistency to workplace injury statistics across the EU. To take account of differing industrial backgrounds across member states, Eurostat publishes standardised incidence rates.</p> <p>Figure 3 and Table 6 below show the latest standardised rates of fatal accidents at work published by Eurostat (for 2013). 2013 data includes injuries for Great Britain and Northern Ireland, forming data for the United Kingdom. These data are compared with an average of the rates published over the previous three-year period (2010 – 2012).</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>The standardised rate of fatal injury for the United Kingdom in 2013 was 0.51 per 100,000 employees, and compares to a three-year average rate of 0.67.</li> </ul>	<p><b>他の国々との比較</b></p> <p>世界的な比較、例えばアメリカ合衆国、アジア等との比較等世界規模の比較、は、職場事故についての定義、報告システム並びに国内産業構造の違い等により困難である。しかしながら、他のいくつかのヨーロッパ諸国との比較は、欧州連合の統計機関（Eurostat）に纏められたデータを通じて可能である。1990 年以來、Eurostat は、欧州全域で職場における災害統計の統一性をもたらす調和計画に関して、欧州連合加盟国と作業してきた。加盟各国における産業の背景が異なっていることを考慮に入れて、Eurostat は、標準化された事故発生率を公表した。</p> <p>次の図 3 及び表 6 は、Eurostat によって（2013 年について）公表された職場における標準化された死亡事故発生率を示している。2013 年データは、グレートブリテン及び北アイルランドの事故を含んでおり、連合王国としてのデータを形成している。これらのデータは、過去 3 年間（2010–2012 年）を通じて公表された平均の発生率と比較されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2013 年の連合王国の標準化死亡事故発生率は、被雇用者 10 万人当たり 0.51 で、3 年間の平均発生率と比較すると。それは 0.67 である。</li> <li>連合王国の 2013 年についての発生率は、相当する EU15 カ国の発生率（10</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● The UK rate for 2013 was considerably lower than the corresponding EU-15 rate (1.19 per 100,000) and that of many other EU member states, including the large economies of Germany (0.81), Italy (1.24), Spain (1.55) and France (2.94).</li> <li>● The GB three-year average rate (2010-2012) was one of the lowest across all EU member states.</li> <li>● Standardised rates published by Eurostat are based on fatalities occurring across all main industry sectors (excluding the transport sector). Whilst road traffic accidents should not be included in these rates, their removal may not always be complete. This should be considered when reviewing rates for individual countries.</li> </ul>	<p>万人当たり 1.19) 及び他の多くの EU 加盟国、大きな経済であるドイツ (0.81)、イタリア (1.24)、スペイン (1.55) そしてフランス (2.94) を含む他の多くの EU 加盟国よりもかなり低くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● グレートブリテンの 3 年間 (2010—2012) 平均発生率は、EU 加盟国全体を通じて最も低いものの一つである。</li> <li>● Eurostat で公表された標準化発生率は、すべての主要な産業部門で発生した死亡事故を基礎としている (輸送分野は除く。)。道路交通事故は、これらの発生率には含まれていないが、これらの除外は、必ずしも完全なものではない。このことは、国別に発生率を評価する場合には、考慮されなければならない。</li> </ul>
--	---

**Figure 3: Standardised incidence rates (per 100,000 employees) of fatal accidents at work for 2013 (Eurostat)**



Note: Figures exclude road traffic accidents and accidents on board transport in the course of work.

図 3 : Eurostat (記者注 : 欧州連合 (EU) の統計局 (Statistical Office of the European Union) のことで、EU の行政執行機関である欧州委員会 の部局の一つとしてルクセンブルクに事務局が置かれている。)による 2013 年についての被雇用者 100,000 人当たりの職場での (国別の) 標準化死亡事故発生率 (原注 : 道路交通事故及び通勤途上の災害は、含まない。)

**Table 6: Standardised incidence rates (per 100,000 employees) of fatal accidents at work for 2013 and averaged rate from 2010 – 2012 (Eurostat)**

Note: Figures exclude road traffic accidents and accidents on board transport in the course of work.

Member state <sup>1</sup>	Eurostat - standardised incidence rate (per 100,000 employees)	
	2013	Average (2010-2012)
Netherlands	0.59	0.66
<b>United Kingdom<sup>2</sup></b>	<b>0.51</b>	<b>0.67</b>
Germany	0.81	0.88
Greece	0.86	0.97
Slovakia	1.65	1.00
Malta	0.49	1.01
Sweden	1.01	1.13
Ireland	0.89	1.24
Denmark	1.12	1.28
Italy	1.24	1.43
<b>EU (15 countries)</b>	<b>1.19</b>	<b>1.44</b>
Switzerland	1.64	1.71
Estonia	3.06	1.92
Spain	1.55	1.96
Belgium	1.80	1.99
Slovenia	1.64	1.99
Poland	1.19	2.01
Hungary	1.06	2.10
Austria	1.44	2.16
Croatia	1.34	2.17
Czech Republic	2.45	2.28
Bulgaria	2.22	2.54
Portugal	2.37	2.70
Luxembourg	0.75	2.84
France	2.94	3.41
Cyprus	3.37	3.62
Lithuania	3.79	3.78
Latvia	3.14	3.88
Romania	2.36	4.06

<sup>1</sup>Whilst overall, work-related deaths are steadily reducing across the EU, in some cases the number of fatalities and employment levels in member states are relatively small, hence susceptible to considerable annual variation. This should be considered when making comparisons between countries. Standardised rates are not available for Finland, Norway or Iceland, and hence these countries are excluded from the above analysis.

<sup>2</sup>2012 and 2013 rates include injuries for Great Britain and Northern Ireland, forming data for the United Kingdom, whereas data from 2010 and 2011 are based on GB data only. UK/GB injury rates shown in the above analysis may differ slightly from those elsewhere in this publication, as Eurostat standardise rates across all member states to take account of differing industrial backgrounds.



表 6 : 2013 年についての職場での標準化死亡事故発生率（被雇用者 10 万人当たり）及び 2010—2012 年の平均発生率（Eurostat）

英語原文	日本語仮訳
<p><sup>1</sup> Whilst overall, work-related deaths are steadily reducing across the EU, in some cases the number of fatalities and employment levels in member states are relatively small, hence susceptible to considerable annual variation. This should be considered when making comparisons between countries. Standardised rates are not available for Finland, Norway or Iceland, and hence these countries are excluded from the above analysis.</p>	<p>全体としては、EU を通じて作業関連の死亡事故は、着実に減少してはいるが、いくつかのケースでは、加盟国における死亡事故の数及び雇用レベルが相対的に小さいので、年ごとのかなりの変動を受けやすい。このことは、国別に比較する場合に考慮されなければならない。標準化発生率は、フィンランド、ノルウェイ又はアイスランドでは利用できないので、これらの国は、上記の分析からは除かれている。</p>
<p><sup>2</sup> 2012 and 2013 rates include injuries for Great Britain and Northern Ireland, forming data for the United Kingdom, whereas data from 2010 and 2011 are based on GB data only. UK/GB injury rates shown in the above analysis may differ slightly from those elsewhere in this publication, as Eurostat standardise rates across all member states to take account of differing industrial backgrounds.</p>	<p>2012 年及び 2013 年の発生率は、グレートブリテン及び北アイルランドの事故を含んでおり、連合王国としてのデータを形成しているが、その一方、2010 年から 2011 年のデータは、グレートブリテンのみのデータである。上記の分析で示されている連合王国/グレートブリテンの事故発生率は、Eurostat が、（国別に）産業の背景を考慮してすべての加盟国を通じた発生率を標準化しているために、この出版物の他の場所でのものと若干異なっている。</p>
<p>Further information on EU health and safety comparisons is available at <a href="http://www.hse.gov.uk/statistics/european/">www.hse.gov.uk/statistics/european/</a></p>	<p>EU の保健及び安全に関するさらなる比較は、<a href="http://www.hse.gov.uk/statistics/european/">www.hse.gov.uk/statistics/european/</a> で利用可能である。</p>

英語原文	日本語仮訳
<p><b>Technical notes</b></p> <p><b>The provisional nature of the latest statistics</b></p> <p>The figures for 2015/16 are at this stage provisional, covering the twelve month accident date period of 1 April 2015 to 31 March 2016, and will be finalised in July 2017 following any necessary adjustments. This updating a year after initial publication, allows for the fact that the investigations of workplace fatal injuries are often complex and can take considerable time. In the course of these investigations new facts can emerge to affect judgements on issues such as whether the accident was work-related or whether the worker was based at the site of the accident. This can sometimes mean that initial views regarding the reportability of the accident or the industrial sector to which it should be assigned can prove to be incorrect.</p> <p>The delay of a year in finalising the figures allows for such matters to be fully resolved in the light of formal interviews with all relevant witnesses, forensic investigation and coroners' rulings. Also, Regulation 6 of RIDDOR covers situations where someone dies of their injuries within a year of their accident.</p> <p>Based on previous years, the overall change next year from provisional to</p>	<p><b>技術的覚書</b></p> <p><b>最新の統計の暫定的な性質</b></p> <p>2015年4月1日から2016年3月31日までをカバーしている2015/16についての数字は、この段階では暫定的であり、そして必要な調整を終えた後の2017年7月に確定されるであろう。最初に公表されてから1年を更新するこのことは、作業場での死亡事故の調査は、しばしば複雑で、かなりの時間がかかり得るという事実を認めるものである。これらの調査の過程で、新たな事実が明らかにされて、その事故が作業関連であるかどうか、又は労働者がその事故の場所にいたかどうかのような問題に関する判断に影響する可能性がある。このことは、ときどき、その事故の報告性又はその事故が想定されていた産業部門に関する最初の見解が正しくなかったことを証明することができることを意味する。</p> <p>数字を確定することにおける1年の遅延は、その問題が、関連するすべての証人との公的な尋問、法廷の調査及び検視官の裁定の光の中で、完全に解明されることを認容するものである。さらに、RIDDOR（障害、疾病及び危険事象報告規則）の第6条は、事故後の1年以内の誰かが死亡した事情をカバーしている。</p> <p>その前年を踏まえて、2015/16の144件の数字の暫定的なものから確定的な</p>

<p>final of the 2015/16 figure of 144 would be expected to increase or decrease by several deaths. Table 7 summarises these changes for previous years.</p>	<p>ものへの次の年での総括的な変更は、数件の死亡の増加又は減少を予想されるかもしれない。表7は、過去の年におけるこれらの変化を要約している。</p>
<p><b>Details of coverage</b></p> <p>Fatal injuries included in these statistics are primarily those deemed to be reportable under RIDDOR (Reporting of Injuries Diseases and Dangerous Occurrences Regulations 2013). They therefore cover accidents that are reportable to one of: HSE; the relevant local authority (LA) or the Office of Rail and Road (ORR). An in-depth account of the scope of RIDDOR legislation can be found at <a href="http://www.hse.gov.uk/riddor/">www.hse.gov.uk/riddor/</a>.</p> <p>The legal changes in RIDDOR from October 2013 had no impact on the reporting of deaths, except for suicides on railways – see below. For the vast majority of such reportable accidents the Health and Safety at Work etc. Act, 1974 is the main legislation applicable.</p> <p>Since 1 April 2006, enforcement of safety on railways has been the responsibility of ORR, and they have provided HSE with the relevant figures since that date. Each year a high proportion of member of the public deaths on railways are suicides, and up to October 2013 there was a requirement under RIDDOR to report such incidents. From 2013 the reporting requirement was removed, affecting statistics for 2013/14 onwards.</p>	<p><b>カバーされた（死亡災害）の詳細</b></p> <p>これらの統計に含まれる死亡事故は、第一義的には、RIDDOR（障害、疾病及び危険事象報告規則 2013年）の下で、報告されるものであると考える。これらは、それゆえ、HSE（安全衛生庁）、関連する地方自治体（LA）又は鉄道及び道路事務所（ORR）に報告される事故をカバーしている。RIDDORに関する法制の詳細は、<a href="http://www.hse.gov.uk/riddor/">www.hse.gov.uk/riddor/</a>で見出すことができる。</p> <p>2013年10月からのRIDDOR（障害、疾病及び危険事象報告規則）の変更は、鉄道線路での自殺を除いて死亡の報告に影響を与えていない。一次を参照のこと。そのような報告されるべき事故が非常に多いので、職場における保健及び安全等に関する法律1974年（the Health and Safety at Work etc. Act, 1974）は主要な適用される法制である。</p> <p>2006年4月1日以来、鉄道上の安全に関する施行は、鉄道及び道路事務所（ORR）の責任であり、彼等は、HSE(安全衛生庁)にその日以来、関連する数字を提供してきた。毎年、鉄道での死亡事故の高い部分は、自殺であり、2013年10月までは、そのような事象を報告することは、RIDDOR（障害、疾病及び危険事象報告規則）の下での要求事項であった。2013年から、この報告の要求は、取り除かれ、2013/14の統計に影響を与えた。</p>

As from April 2015, figures in this publication no longer include ‘patient and service user’ deaths in England for premises registered with Care Quality Commission (CQC). Previously these statistics were recorded as member of the public’ deaths in ‘services’. For more information on this change, please see

<http://www.hse.gov.uk/aboutus/howwework/framework/mou/mou-cqc-hse-la.pdf>

The following are clarifications of the fatal injuries that are generally included or excluded in these statistics.

This is a generalised view, and each record of a fatal injury is considered on an individual basis. Although a particular fatal incident may fall outside the scope of these figures, the relevant health and safety enforcing authority (HSE, LA, or ORR) may still have an interest.

2015年4月から、この出版物は、最早、the Care Quality Commission(CQC). (前出の訳者注どおり。)が登録している建物についての「イングランドにおける患者及びサービス利用者の死亡」については、含んでいない。この変更に関するさらなる情報は、

<http://www.hse.gov.uk/aboutus/howwework/framework/mou/mou-cqc-hse-la.pdf>

を参照されたい。

次の記述は、これらの統計において一般的に含まれるか、又は除外される死亡事故の明確化である。

このことは、一般的な見解であって、死亡事故の個々の記録は、個別のものであることを基礎として考慮される。特定の死亡事象は、これらの数字の適用範囲の外に落ちるかもしれないが、関連する保健及び安全執行機関(HSE、LA又はORR)は、依然関心を持つかもしれない。

**Table 7: Differences in 'provisional' and 'finalised' figures**

Year of death	Provisional figure	Finalised figure	Difference
2015/16p	144	-	-
2014/15	142	142	0
2013/14	133	136	3
2012/13	148	150	2
2011/12	173	171	-2
2010/11	171	175	4
2009/10	151	147	-4
2008/09	180	179	-1
2007/08	228	233	5

英語原文	日本語仮訳
<p><b>General inclusions to these figures</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Overall, fatal injuries to those classified as workers (the term 'workers' describes both employees and self-employed combined – those on a training scheme, or on work experience, are classified here as employees).</li> <li>The self-employed, where they are in control of the work or premises (although there is no legal requirement to report such accidents as there is no employer that can be assigned the task of undertaking this</li> </ul>	<p>これらの数字に対して一般的に含まれるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最終的には、労働者と分類される者にとっての傷害（「労働者」とは、被雇用者及び自営業者の両方を連結して表す。—訓練制度に関する傷害又は作業経験（をさせること）に関連する傷害は、ここでは「被雇用者」として分類される。</li> <li>作業又は建物の内部において管理されている場合の自営業者（この義務の履行に当たることが想定される使用者がいないので、そのような事故を報告する法的な要求がないにもかかわらず。）</li> </ul>

<p>duty).</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Workers involved in rail track, or roadside maintenance, and refuse collection.</li> <li>■ Workers killed as a consequence of physical violence occurring whilst at work – though there is anecdotal evidence to suggest that compliance with the reporting requirement within RIDDOR may be patchy (such deaths are primarily covered by other legislation, and the police have primacy in the investigation, hence the need to report under RIDDOR may sometimes be overlooked).</li> <li>■ Members of the public killed as a result of an accident, which has arisen out of or in connection with work activity, although they are not 'at work' themselves. For example: <ul style="list-style-type: none"> <li>—Customers on retail premises;</li> <li>— Residents in residential care homes;</li> <li>—Passengers on trains,</li> <li>—Those fatally injured whilst 'working' on an unpaid, voluntary basis (whilst very few in number) are classified here as members of the public.</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ レール上を走行するトラック又は道路わきの補修及び清掃に関する労働者</li> <li>■ 作業場で起こった物理的な暴力の結果として殺された労働者—RIDDOR（障害、疾病及び危険事象報告規則）の範囲内での報告要求事項の遵守が寄せ集め（そのような死亡は、第一義的には他の法制でカバーされ、警察が第一義的な調査を行うために、この RIDDOR による報告はときど見過ごされるが。）であることを示唆する伝聞であるとしても。</li> <li>■ 作業行動から生じた、又はそれと結びついて殺された公衆の構成員、これらが「職場で」そのものでないにもかかわらず。例えば： <ul style="list-style-type: none"> <li>—小売店での顧客</li> <li>—居住者のケアホームでの居住者</li> <li>—列車の乗客</li> <li>—「作業」が、無償で、自発的で（非常に少数で）、ここでは公衆の構成員であると分類される間における死亡災害</li> </ul> </li> </ul>
<p><b>General exclusions to these figures</b></p> <p>Fatal injuries excluded from the statistics are mainly those deemed non-reportable under RIDDOR. The most important exclusions are as follows:</p>	<p>これらの数字に対して一般的に除外されるもの</p> <p>統計から除外される死亡事故は、主に RIDDOR（障害、疾病及び危険事象報告規則）の下では報告を求められないと考えられるものである。最も重要な除外は、次のとおりである。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Fatal accidents involving workers travelling on a public highway (a 'road traffic accident'). Such incidents are enforced by the police and reported to the Department for Transport. Those killed whilst commuting (travelling from home to work, and vice versa) are also excluded. For road accident statistics, see <a href="http://www.gov.uk/government/organisations/department-for-transport/series/road-accidents-and-safety-statistics">www.gov.uk/government/organisations/department-for-transport/series/road-accidents-and-safety-statistics</a></li> <li>■ Fatal accidents involving workers travelling by air or sea. These incidents are the responsibility of the Air Accident Investigation Branch and Marine Accident Investigation Branch of the Department for Transport, and reported accordingly.</li> <li>■ Fatal injuries at work due to 'natural causes', often heart attacks or strokes, unless brought on by trauma due to the accident.</li> <li>■ Accidents to members of the armed forces.</li> <li>■ Suicide (see note above about the recent change to railways-related incidents)</li> <li>■ Members of the public killed as a consequence of physical violence.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公共のハイウェイを旅行している労働者に関連する死亡事故（「道路交通事故」）。そのような事象は、警察によって所管され、運輸省に報告される。通勤途上で死亡した事象（家庭から仕事へ、及びその逆）もまた、除外される。道路交通事故の統計は、 <a href="http://www.gov.uk/government/organisations/department-for-transport/series/road-accidents-and-safety-statistics">www.gov.uk/government/organisations/department-for-transport/series/road-accidents-and-safety-statistics</a>を参照されたい。</li> <li>■ 空路又は海路を旅行する労働者に関連する死亡事故。これらの事象は、運輸省の航空事故調査部門及び海上事故調査部門の責任であり、それに従って報告される。</li> <li>■ 事故による心的外傷によってもたらされたものでない限り、職場での自然的原因での死亡事故、しばしば心臓発作による。</li> <li>■ 軍隊の構成員の事故</li> <li>■ 自殺（鉄道関連の事象に対する最近の変更に関する注を参照されたい。）</li> <li>■ 物理的な暴力の結果として殺された公衆の構成員</li> </ul>
<p><b>Calculation of fatal injury rates and the source of employment estimates</b></p> <p>Changes in the size of the workforce will impact on the number of fatalities in any one year. Therefore, when making any comparisons either on a</p>	<p><b>死亡事故発生率の計算及び雇用の見積もり</b></p> <p>労働力の大きさの変化は、どの年においても死亡の数に影響する。それゆえ、年間の、又は産業間の比較を行う場合は、適切なものとしての、被雇用者、自</p>

<p>year-to-year basis or between one sector and another it is important to look at the rate of fatal injury per employees, self-employed or workers, as appropriate. This is derived from the numerator (the count of fatal injuries) and the denominator (the estimated employment). This is then multiplied by a factor of 100,000, producing a fatality rate in line with international standards.</p> <p>The source of employment data used to construct the injury rates in these figures (and all HSE statistics published from November 2011) is the Annual Population Survey (APS). The APS is a comprehensive single data source that provides HSE with insight into a wide range of working structures, as well as ensuring that employment data being used for all rate calculations (fatal and non-fatal injuries) is consistent and therefore comparable.</p> <p>The Office for National Statistics (ONS) is the provider of the APS data. The analysis and interpretation of these data are the sole responsibility of HSE.</p>	<p>営業者又は労働者ごとの死亡事故発生率に着目することが重要である。</p> <p>このことは、分子（死亡事故の数）そして分母（雇用の見積もり）から導き出される。これは、その後、100,000 の数を乗じて、国際基準に沿った死亡は成立が得られる。</p> <p>これらの数字（そして 2011 年以來の HSE が公表したすべての統計）における傷害発生率を組み立てるために用いられる雇用データの出所は、年間人口調査（APS）である。年間人口調査（APS）は、包括的な単一のデータソースで、HSE に労働構造の広範囲な識見を与え、及びすべての発生率（死亡及び非致死的な傷害）の計算のために用いられる雇用データが一致しており、それゆえ比較可能なものとなることを保障する。</p> <p>国家統計事務所（ONS）は、年間人口調査（APS）のデータの供給者である。これらの分析及び説明は、HSE のみの責任である。</p>
<p><b>The separate publication of names and details of fatalities on the HSE website</b></p> <p>On a monthly basis HSE publishes an updated list of the collated picture</p>	<p>HSE のウェブサイト上での死亡事故の名称及び詳細の分離した公表</p> <p>毎月のベースで、HSE は、死亡事故に関する報告された情報を分析した姿の</p>



<p>of 'as reported' information on fatalities. This includes those incidents documented in our Chief Executive's reports. The list does not purport to be a formal statistical release, and cannot be directly compared with the figures provided here, for the following reasons:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ It relates only to those incidents enforced by HSE, i.e. it does not cover incidents enforced by local authorities or ORR.</li> <li>■ Subsequent investigation may determine that some of the cases in the monthly list are not reportable under RIDDOR, for example deaths due to natural causes.</li> <li>■ Other deaths in the list may have been caused by gas incidents in the home. In such cases these deaths will not be counted in the statistics for workplace fatal injuries detailed in this report.</li> <li>■ The list in respect of 2015/16 names and details is at <a href="http://www.hse.gov.uk/foi/fatalities/2015-16.htm">www.hse.gov.uk/foi/fatalities/2015-16.htm</a>.</li> </ul>	<p>最新のリストを載せている。これは、我々の最高執行者の報告で取り扱われた事象を含んでいる。このリストは、公式な統計の公表せあるとすることはできないし、そして、次の理由で、ここで提供された数字と直接比較することはできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ それは、HSE が取り扱っている事象のみに関連している、つまり、地方自治体又は ORR (鉄道及び道路事務所) で取り扱われる事象は、カバーしていない。</li> <li>■ 引き続き調査は、毎月のリストの中のいくつかのケースは、RIDDOR (障害、疾病及び危険事象報告規則) の下では報告されないもの、たとえば、自然死であることを決定するかもしれない。</li> <li>■ そのリストの中の他の死亡は、家庭内でのガス事故が原因である可能性がある。そのようなケースでは、これらの死亡は、この報告で詳細にされている職場での死亡事故の統計ではカウントされない。</li> <li>■ 2015/16 に関する名称及び詳細に関するリストは、<a href="http://www.hse.gov.uk/foi/fatalities/2015-16.htm">www.hse.gov.uk/foi/fatalities/2015-16.htm</a> で見ることができる。</li> </ul>
---	---

英語原文	日本語仮訳
<p><b>National Statistics</b></p> <p>National Statistics status means that official statistics meet the highest standards of trustworthiness, quality and public value.</p>	<p><b>国家統計</b></p> <p>国家統計の重要性は、公的な統計が信用でき、良質で、公共的な価値のある最高の標準に適合していることを意味する。</p>

All official statistics should comply with the Code of Practice for Official Statistics. They are awarded National Statistics status following an assessment by the Authority's regulatory arm. The Authority considers whether the statistics meet the highest standards of Code compliance, including the value they add to public decisions and debate.

It is Health and Safety Executive's responsibility to maintain compliance with the standards expected by National Statistics. If we become concerned about whether these statistics are still meeting the appropriate standards, we will discuss any concerns with the Authority promptly. National Statistics status can be removed at any point when the highest standards are not maintained, and reinstated when standards are restored.

An account of how the figures are used for statistical purposes can be found at [www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm](http://www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm).

For information regarding the quality guidelines used for statistics within HSE see [www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm](http://www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm).

A revisions policy and log can be seen at [www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/](http://www.hse.gov.uk/statistics/about/revisions/).

Additional data tables can be found at [www.hse.gov.uk/statistics/tables/](http://www.hse.gov.uk/statistics/tables/).

すべての公的な統計は、公的統計の実施準則（the Code of Practice）に従わなければならない。これらは、権威ある規制的な権威によって評価された後、国家統計の地位を授与されている。この権威は、その統計が、公共の意思決定及び議論に対して価値を加えていることを含めて、最高の遵守基準に適合しているかどうかを考慮している。

国家統計によって予想される基準との適合性を保持することは、HSE の責任である。もしも、これらの統計が依然適切な基準に適合しているかどうか懸念があるならば、我々は、速やかにいかなる懸念もその権威（ある機関）と協議するであろう。

国家統計の重要性は、最高の基準が保持されないときにはいかなる瞬間でも取り除かれ、そして基準が回復されたときには復帰される。

統計目的のためにこれらの数字が如何に用いられるかの説明は、[www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm](http://www.hse.gov.uk/statistics/sources.htm) で得られる。

HSE の内部で統計として使用されている品質のガイドラインに関する情報に関する情報については、

[www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm](http://www.hse.gov.uk/statistics/about/quality-guidelines.htm).

を参照されたい。

追加的なデータ表は、[www.hse.gov.uk/statistics/tables/](http://www.hse.gov.uk/statistics/tables/) で見出すことができ

	る。
--	----